

平成26年度 第2回調査・研究企画会議 議事概要

- 1 日時：平成26年7月9日（水） 10：00～17：30
- 2 場所：食品安全委員会中会議室
- 3 出席者（8名）五十音順
圓藤 陽子（(独)労働者健康福祉機構関西労災病院
勤労者医療総合センター・産業中毒センター長）
尾崎 博（国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
鬼武 一夫（日本生活協同組合連合会品質保証本部安全政策推進部部長）
川村 孝（国立大学法人京都大学環境安全保健機構健康科学センター長）
熊谷 進（食品安全委員会 委員長）
◎佐藤 洋（食品安全委員会 委員長代理）
山添 康（食品安全委員会 委員長代理）
三森 国敏（食品安全委員会 委員長代理）
（◎：座長）
その他、事務局から姫田事務局長ほか10名が出席

4 議題

- (1) 平成25年度終了研究課題の事後評価（ヒアリング審査）
- (2) 平成26年度食品健康影響評価技術研究課題の追加公募について
- (3) その他

5 議事概要

- (1) 平成25年度終了研究課題の事後評価（ヒアリング審査）
 - 平成25年度で終了した以下の研究課題（8課題）の研究成果について事後評価を行うため、各課題の主任研究者（分担研究者）に対しヒアリング審査を実施した。なお、課題番号1102の書面審査及びヒアリング審査については、審査の公正性を確保するため、圓藤陽子専門委員を除く7名の調査・研究企画会議構成員で実施した。
 - ①1101：食品を介するリステリア感染症も係わる高病原性リステリア株の評価と生体側の要因を加味した食品健康影響評価に関する研究（国立医薬品食品衛生研究所：五十君静信）
 - ②1102：アルセノシュガー、アルセノリピッドを含有する食品摂取による健康リスク評価（大阪市立大学：圓藤吟史）
 - ③1103：肝臓キメラマウスを用いたヒト型代謝プロファイルの外挿によるリス

ク評価手法の開発（（公財）実験動物中央研究所：末水洋志）

- ④1104：ラットにおける遺伝毒性・反復投与毒性併合試験法の開発（国立医薬品食品衛生研究所：西川秋佳）
- ⑤1201：酸化ストレスを誘導する遺伝毒性物質の低用量における量反応関係の解析（（独）国立環境研究所：青木康展）
- ⑥1202：食肉の寄生虫汚染の実態調査と疫学情報に基づくリスク評価手法の開発（国立感染症研究所：山崎浩）
- ⑦1203：食品のウイルス汚染のリスク評価のための遺伝子検査法の開発と応用に関する研究（国立医薬品食品衛生研究所：野田衛）
- ⑧1204：ハイリスクグループにおける評価に関する研究－不確実係数の妥当性について（香川大学：今井田克己）

（2）平成26年度食品健康影響評価技術研究課題の追加公募について

- 事務局から、平成26年度に実施する食品健康影響評価技術研究として追加公募する課題（案）として、「食品安全確保総合調査及び食品健康影響評価技術研究の優先実施課題（平成26年度）」（平成25年9月9日食品安全委員会決定）（以下「優先実施課題」という。）の「Ⅱ 生物学関連分野」に関連する2課題を提示し、審議を行った。その際、議題（1）の事後評価（ヒアリング審査）時の審議を踏まえた上で、ほかに追加公募すべき課題があるかどうかについても検討した。
- その結果、上記2課題に加えて、優先実施課題の「Ⅳ 自ら評価や新たなハザードへの対応、緊急時対応等に必要な分野」に関連する1課題についても追加公募することが了承された。なお、研究課題名、研究内容等の詳細については座長一任とされた。

（3）その他

- 議題（1）の事後評価（ヒアリング審査）の結果（当日に事務局で取りまとめた速報）を踏まえ、今後開催予定の研究成果発表会において発表すべき課題及び関係する専門調査会において発表すべき課題の選定をそれぞれ行った。
- また、事後評価結果については、事務局にて評価所見等を取りまとめ、後日調査・研究企画会議構成員にメールで意見照会し、了承が得られた後に食品安全委員会に報告することとなった。

－以上－

（注：本会議は個別具体的な研究者や研究課題名及び研究の内容に言及して議論が行われることから、非公開で行った。このため、本会議の議事概要についても、それらが特定されない形で公表するものである。）